

平成30年度 太良町立大浦小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>ひこばえの心を持ち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る。</p>	<p>(1) 教育相談体制を強化し個に応じた指導を行うとともに、良好な学級集団づくりの充実を図る。 (2) 確かな学力向上を推進するとともに、主体的な学びを育成するための学習環境の充実を図る。 (3) 児童の豊かな心を育成するとともに、自他の良さを認め、互いに協力し合う心の育成を図る。 (4) 学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革をめざす教職員集団作りの充実を図る。</p>

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を達成するために、「ホトでほとほキーム大浦小！」を合言葉にして取り組みます。

3 目標・評価

① 教育相談体制の強化による個に応じた指導と、良好な学級集団づくりの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	①特別の教科「道徳」の充実 ②教育相談・特別支援教育の充実 ③人権意識の向上	①道徳の授業を充実させる。6月の日曜参観時に全学級でふれあい道徳の授業を行う。	①6月に「ふれあい道徳」の時間を設定し、保護者へ啓発のため学級通信を発行する。	A	①ふれあい道徳は各学級で実施に合わせた教材を使い、全学級で実施できた。また校内研修のひとつに道徳部があり、全体研や講師招聘を通して、授業づくりや評価についての研修を行うことができた。 ②3全職員で共通理解をして、それぞれがそれぞれの立場で温かく見守り支援することができた。また、学校だけの情報共有だけでなく、幼保・小中・医療機関との連携も、それぞれの児童にあった支援を多方面から探ることができた。	①道徳の評価のありかたについては、さらに研修を深めたい。 ②今年度同様、毎月の子どもの支援会議で共通理解を深め、さらに各グループにおいて、とくに支援が必要な児童への手立てを具体的に考え実践していきたい。
			②毎月第2水曜日子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図る。	②毎月第2水曜日子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図る。また、学校だけの情報共有だけでなく、幼保・小中・医療機関との連携も、それぞれの児童にあった支援を多方面から探ることができた。			
			③QUアンケート、分析を行い、対策を考える。	③2年2回(6月・12月)QUアンケートを実施し、学力テスト(OFT)とのパッチリ分析を行い、より児童の実態に沿った支援や対策を行う。			
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止	①全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にすることを育てる。	①全校朝会等で担当者が話をし、人権意識を高められるようにする。8月に平和集会、12月に人権週間、人権集会を行う。	B	①毎月心のアンケートを実施し、いじめの萌芽を早期にとらえて迅速に対応にあたる。 ②職員研修を行い、職員のカウンセリングマインドの向上につとめる。	①「ほたけの木」の取り組みは、各学級での温度差があり、取り組み方にばらつきがあった。人権週間その時だけでなく、通年で取り組めるような手立てを考えたい。 ②子どもに支障にあたる職員全員が、子どもたちの悩みに寄り寄り寄り、解決方法を一緒に見つめられるよう、研修を深めたい。また、スクールカウンセラーに教室に入ってもらい、一緒に関わってもらい、いじめの未然防止に努めたい。
			②いじめ未然防止のための職員研修を行う。	②いじめ未然防止のための職員研修を行う。			
			③人権意識の向上	③全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にすることを育てる。			
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	①「ひこばえがらばりカード」を毎月実施し、生活習慣の定着と家庭との連携を行う。	①「単履早起朝ごはん」の基本的生活習慣の定着をめざして、指導(声かけ)コメントする。	B	①「ひこばえがらばりカード」を実施し、担任のコメントで励ますことで生活習慣の定着につながっていった。また、家庭でも意識しかけをもらった。	基本的な生活習慣の定着のみならず、スマホやタブレットなどの情報機器の扱い方や、視聴時間・内容など児童だけでなく保護者へも啓発していきたい。
			②いじめ未然防止のための職員研修を行う。	②職員研修を行い、職員のカウンセリングマインドの向上につとめる。			
			③人権意識の向上	③全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にすることを育てる。			

② 確かな学力の推進と、主体的な学びを育成するための学習環境の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	①基礎的、基本的事項の確かな定着 ②学習指導要領の移行内容を意識した校内研究の推進 ③家庭学習、家庭生活習慣の定着	①話し合い活動を充実させるために、アタックタイム・友だちタイム・みんなのタイムを取り入れる。授業の中で、「まとめ」「振り返り」を行う。	①それぞれのタイムで使用するプリントを全教員に準備し、活用できるようにした。「まとめ」「振り返り」を行う際、キーワードや字数を提示するなど工夫する。	B	①全職員が話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。 ②全職員研究授業(国語、道徳、外国語)を実施し、学習指導要領に対応した学習指導のあり方の研究を全職員で深めた。	①授業のタイムマネジメントを行い、授業の中に話し合い活動を予定できるように心がける。めあてに沿った「まとめ」「振り返り」を行うように、字数やキーワードなど、適切な条件を提示するようにする。 ②学習指導要領に対応した授業のあり方の研究を深めながら、全職員、研究授業を行う。また、西部監授業の実践を継続し、児童の思考力・判断力・表現力の力を向上させる。 ③主体性や長続きを促すためにひこばえカードを活用する。また、ひこばえカードにある各領域の児童や児童のがんばりを点検するなどで、児童の学習・生活習慣の定着を図る。
			②新学習指導要領に対応した学習活動の研究を行う。(特別の教科「道徳」、「外国語」、各教科等)	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。			
			③ひこばえがらばりカード等を活用して、学習・生活習慣の定着を図る。「目標達成できた」と答える児童を80%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用した授業の推進	①「アンケート」でICT活用に関わる教材を活用した授業ができた」と答える職員を90%以上とする。	①電子黒板に関する電子教材を充実させ、担任が活用しやすいように情報を提供する。 ・研修会を通してタブレット端末の活用方法を広める。 ・Skypeを用いた遠隔授業を実施する。	B	①デジタル教科書を中心に全クラスで電子黒板を使用した授業を行うことができた。NHK for Schoolのコンテンツが分かりやすいため、低学年を中心に活用しているクラスが増えた。また、アナログ教材にデジタル教材を加えることで子どもたちの学習意欲が深まる手立てとして有効であった。 ②Skypeを使って、オーストラリアの小学校と交流することができた。来年度も同様に実施する予定。	①来年度からは、タブレット端末の利用方法を4月中には行えるように、タブレット端末の利用向上を図る。 ②Web教材Scratchなど、簡単なマウス操作でプログラミング学習を行うことができるよう、職員にプログラミング学習教材の情報提供を行う。
			②「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			

③ 児童の豊かな心の育成と、自他の良さを認め、互いに協力し合う心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●生徒指導	①安全・防災意識の向上 ②生活指導の徹底	①関係機関と連携して安全・防災意識が高まるような効果的な安全指導、避難訓練を計画的に行う。	①安全指導や避難訓練についてプロジェクトで話し合い、児童の安全・防災意識が高まるような活動内容を工夫して計画の進行を行う。	B	①避難訓練、避難経路の周知徹底ができた。夏休みに、防火設備(バケツ消火器など)の取り扱い方法について確認し、実際に訓練の中で防火設備を使うことができた。また、避難訓練の計画も、職員、児童に分け、時系列ごと立てることができた。 ②アンケートで、「大きな声であいさつ、返事ができる」と答えた児童が90%、「正しい廊下歩行ができる」と答えた児童が88%、「無言排除」ができる」と答えた児童が85%であった。また、具体的方策として「各教室、校内に「あいさつ」の掲示を行い、低学年を中心に活用しているクラスが増えた。また、アナログ教材にデジタル教材を加えることで子どもたちの学習意欲が深まる手立てとして有効であった。 ③アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	①避難経路の見直しを行い、より安全な避難経路の設定に努める。避難経路等の職員の配属の再検討が必要。 ②正しい廊下歩行を意識させることで、落ち着いた学校生活を送る態度を身に付けさせる。また、あいさつは、校内では積極的に行うことができる児童が多いが、校外や地域の人に対しては消極的である。誰に対しても、自分から大きな声であいさつすることを徹底させるような具体策を立てて取り組んでいく。
			②職員共通通りによる指導を徹底する。 ・アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言排除」ができる児童を80%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
教育活動	●主体的に取り組む活動の充実	①児童会・委員会活動の充実 ②教科・領域で身に付けた表現力の活用	①児童が活躍できる学校行事や集会等を設定する。	①児童会の中で、児童のアイデアを取り入れた委員会紹介を行う。学期はじめに活動の見直しをもち、学期末には活動の振り返りや発表を行う。 ②各種コンクールを児童、保護者へ進捗紹介する。	A	①学校行事では、代表委員会話し合ったことにもとづいて役割分担を行い、児童の主体的な活動につなげることができた。また、委員会の活動内容やお知らせ、掲示物を活用することで全校に伝えることができた。 ②アンケートで、「いろいろな作品コンクール」に参加した児童が90%であった。その方策として、「各種コンクールを児童、保護者へ進捗紹介し、取り組む児童が90%であった。」と答えた職員が85%、第1回目アンケート16.7%から第2回目アンケートの27.3%に伸びた。ヤング川柳や夏休みの作品募集について情報提供を広く行い、たくさん児童の作品を提出した。また、町内音楽会に参加し、主体的に準備や練習を行うことができた結果であると考えられる。	①児童数の減少に伴い、委員会の活動内容の精選を行うことで、充実した活動を行うこととする。更なる委員会発表の活用について提案する。 ②各学年の発達段階に応じて、紹介する作品を精選する。また、地域の作品は先立って取り組む。
			②表現力・思考力が発揮できる「コンクール」へ参加した児童を80%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
教育活動	●健康・体づくり	体力づくりの推進	①学期ごとの体育的行事等において体力向上の推進を行う。	①各行事で、自分なりのあてをもち、その達成をめざして努力することを目指す。	A	①アンケートで、「運動会などの体育的行事では、あてをもちがんばった」と答えた児童が95%であった。がんばりカードを活用することで意欲の継続を図り、自分なりのあてに向かって継続して取り組ませることができた。特に、マラソン大会では、完歩を希望したことに取り組む児童が増えた。また、縦割り活動の中で、大組の取り組み期間を設けることで、後向きな自主的に取り組む児童の姿が見られた。	①体育行事の精選に伴い、より充実した取り組みができるように、がんばりカードや取り組み期間の検討などを行う。
			②「アンケート」で、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
教育活動	●地域連携等による体験活動の充実	地域教材を活用した学習の充実	①「アンケート」で、「郷土の資源(人的・物的)を生かした学習活動や年間1回以上行った」と答える職員を90%以上とする。	①生活科や総合的な学習の時間等において郷土の資源(人的・物的)を生かした体験活動や表現活動を計画・実践する。 ②各担任が、地域コーディネーターと連絡・調整して外部や地域ボランティアと連携した学習活動を計画・実践する。	A	①アンケートで、「郷土の資源(人的・物的)を生かした学習活動や年間1回以上行った」と答えた職員が85%、その方策として、「生活科や総合的な学習の時間等において郷土の資源(人的・物的)を生かした体験活動や表現活動を計画・実践した」と答えた職員が88%であった。 ②アンケートで、「地域コーディネーターとの連携による学習活動や年間1回以上行った」と答えた職員が93%、その方策として、「各担任が、地域コーディネーターと連絡・調整して外部や地域ボランティアと連携した学習活動を計画・実践した」と答えた職員が90%であった。なお、「地域の協力しながら教育活動に取り組んでいる」と答えた保護者が90%であった。 年間を通じて地域コーディネーターと連携を図ったことにより、地域教材を活用した学習の充実を図ることができた。	①取組についての課題を引き継ぎ事項が生まれるようにするためには、教育課程の各教科・領域の年間計画に明記して、無理なく計画的に実施していく必要がある。
			②「アンケート」で、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			

④ 学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革をめざす教職員集団作りの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●学校経営方針	学校教育目標の周知、徹底	①今年度、新たな重点目標を策定して保護者、児童、教職員への周知徹底を80%以上とする。	①学校教育目標について、学校だよりやPTA総会で保護者に説明する。 ②学校教育目標について、児童に全校朝会等で説明する。 ③学校教育目標、今年度の重点目標と職員の業績評価、学級目標等との関連付けを行い、学校運営力を向上させる。	A	①アンケートで、「学校教育目標、新たな重点目標を策定して保護者、児童へ説明した」と答えた職員が90%であった。また、アンケートで、「学校の目標を知っている」と答えた職員が100%、保護者は93%であった。 ②全校朝会、学校だよりを初めに学校目標を周知して知らせたことにより、児童、保護者に周知徹底できた。	①学校教育目標、今年度の重点目標について職員自らが「業績評価、学級目標等」と関連付けを行い、学校運営力を向上させた」と答えた職員が83%だったことから、各々達成するための具体策については、さらに意識して取り組む必要がある。
			②「アンケート」で、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
学校運営	●学校運営力の向上	①ブロック制による学年経営 ②プロジェクト制による校務運営 ③各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	①「アンケート」で、「取組(地域連携やPTA行事等)について情報共有し、必要に応じて管理職への「縦・横・斜」の連携を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答える職員を90%以上とする。	①ブロック主任、各部長は年間を通して、日常的に情報の共有を行う。特にブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるよう進捗状況を把握する。	A	①アンケートで、「取組(地域連携やPTA行事等)について情報共有し、必要に応じて管理職への「縦・横・斜」を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答えた職員が85%であった。なお、本年度、ブロック主任会議は実施しなかったものの、学年後半からの「カリキュラム化」のためのプロジェクト会議ではブロック主任リーダーとして、取り組むことができた。さまざまな視点からの協議がなされ、教育課程移行期の取組として意義があった。 ②アンケートで、「プロジェクトの会議決定を基本とした取組ができた」と答えた職員が90%であった。また、その方策として「取組が主体的・組織的に行われ、児童にとって有効なものとなるよう、プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組の重点事項について内容・方法の検討や改善を行った」と答えた職員が95%であった。 ③アンケートで、「担当分野の内容改善を進めた」と答えた職員が78%であった。また、その方策として「各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連携を働きかけ取り組んだ」と答えた職員が80%であった。具体的な目標についてだけでなく、その具体的な方策についての取組がどうだったかをアンケートにより調査した結果、総合的に見て達成することができたと考えられる。	①ブロック制、プロジェクト制等は新年度についても学校運営の要であると考えられる。職員のやりやすさを意識した、個々の目標設定と意図的・計画的な取組が推進されるよう、運営会議や各リーダーのチェック機能を発揮させることが必要である。
			②「アンケート」で、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①長時間労働の解消 ②業務改善と環境整備 ③業務移管等による取組	①「定時退勤実施率100%を目指す。」	①「毎週金曜日」「定時退勤日」として定めて周知徹底を図る。また、職員の在勤時間を正確に把握して取組の充実を図る。 ②本年度末作成の「引き継ぎ書」、校務サーバー、毎月開催のプロジェクト会議を有効活用して、各担当が効率的な業務を遂行できるようにする。 ③学校集金の事務職への移行により、事務処理の効率化を図る。	B	①アンケートで、「定時退勤日実施できた」と答えた職員が75%、その方策として、「毎週金曜日「定時退勤日」として定めて周知徹底を図った。」と答えた職員が70%であった。 ②アンケートで、「行事や会議の効率化、校務分掌の標準化、校務サーバー等の利活用による効率化を心がけることができた」と答えた職員が78%、その方策として「年度末作成の「引き継ぎ書」、校務サーバー、毎月開催のプロジェクト会議を有効活用して、効率的な業務を遂行できた」と答えた職員が73%であった。 ③アンケートで、「学校集金の処理が効率よくなった」と答えた職員が90%、その方策として「学校集金の事務職への移行により、事務処理の効率化を図ることができた」と答えた職員が93%であった。 業務改善、働き方改革については初めに取組むこと。部分的に見ると効果的になってきたと思われる箇所もあるが、総合的に見ると、実感が伴うような改善が少ない。また、目標に対する方策も、意識改革と共に更に進捗していく必要がある。	①一部の業務が少なくなると他の職員へのしわ寄せが行くようでは、来年度の業務改善と働き方改革の推進を促す必要がある。業務改善と働き方改革の推進を促す必要がある。業務改善、環境整備については必要がある。
			②「アンケート」で、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ・アンケートで、「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。			
			③「アンケート」で「話し合い活動の充実を図ることを意識し、授業に取り組みようになった。児童が、提示した条件を満たしながら、「まとめ」「振り返り」を行うようになった。」と答える職員を90%以上とする。	③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。			

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度は、昨年度新たに学校運営力という観点で取り組んだ項目を中心に、継続・発展事項を中心に取り組んできた。また、本年度新規の取組として業務改善・働き方改革の観点も加えた。

①「教育相談体制の強化による個に応じた指導と、良好な学級集団づくりの充実」については、本年度も職員の共通理解と連携で、成果を挙げることができた。一方、いじめの未然防止、スマホ・タブレット等への対応についての情報は日々変化している。保護者への啓発を含めて新たな課題へ対応できるよう今後いっそう取り組んでいく必要がある。

②「確かな学力の推進と、主体的な学びを育成するための学習環境の充実」については、昨年度の取組の課題を受け継ぐことで成果を挙げることができた。特に、一貫した学習の学習過程の統一、話し合い活動の具体的な手立てや新教育課程への移行を意識した取組は有効であった。一方、タブレットの活用やスカイプを使った外国語学習、プログラミング学習の教材化等、これらにも学校単位での取組が行われてきたものの中に、全校の取組としてカリキュラム化できるものがある。新教育課程へ向けに整備しているところである。

③「児童の豊かな心の育成と、自他の良さを認め、互いに協力し合う心の育成」については、本年度も学校単位の学校行事から地域連携に係る学習活動に至るまで、多種多様な取組が展開された。特に、学校行事計画の見直しや児童の自主的な活動、委員会活動等の掲示板の活用等、本年度の特色と思われるものが打ち出された。今後、新教育課程の実施にあたり、授業時数の変更、児童数の減少が目の前に迫っている。活動内容の精選を行いつつ充実した活動が中心に仕組んでいくが課題である。

④「学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革をめざす教職員集団作りの充実」については、学校教育目標の周知・徹底、そして、ブロック制、プロジェクト制による学校運営組織体制の整備とPDCAサイクルに沿った取組が定着してきた。今後の課題は、本年度から新たに観念として取り入れた、業務改善と働き方改革の推進を含めた学校運営の充実である。効率のよい業務改善と環境整備の推進を図り、さまざまなマネジメント機能を生かすこと、情報化による学びづくり、学力向上を目指していかなければならない。